

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立と社会参加を目指し、キャリア教育の視点で小学部から高等部まで連続性・一貫性のある教育課程を編成し実践・評価・改善を図る。</li> <li>・ICT機器等の有効活用を推進し、専門性の高い教育活動を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各学部の授業実践を通して、児童・生徒の年齢や発達段階に応じた「社会とかかわる力」を育成する。</li> <li>②ICT機器を活用した「つなぐ」をキーワードとした授業の事例を蓄積し、関係者間で共有できる環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各学部は、社会とかかわる力を育てる観点を授業づくりに盛り込む。 校内研究では、それぞれの学部の障害や発達の段階から取り組むべき内容や具体的な手立てを整理する。</li> <li>②各学部は、児童・生徒の実態を踏まえて、ICT機器を活用した授業を行う。離れた場所の児童・生徒同士で合同の授業を行う際に、ネットワークを活用した授業を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業づくりにおいて、社会とかかわる力を育成する具体的な手立てを講じることができたか。</li> <li>②ICT機器を活用し「つなぐ」をキーワードとした授業を行ったか。また、ネットワークを活用して校内の児童・生徒の学びのつながりを実践したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会とかかわる力を育てるための授業について、各学部で大事にしたい取組を「成立、広がり、深まり」という枠組みで整理できた。</li> <li>②麻生校舎内の学部間交流、麻生校舎と児童生徒の自宅をつないだ授業、虹ヶ丘小学校と麻生校舎をつないだ授業を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「社会とかかわる力の育成」という大きな目標を共有して、職員同士で話し合う良さを再認識した。アイデアを教科等の授業に活用できるとよい。</li> <li>②前年度に比べて取組は進んだが、十分に認知されていないことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①コロナ前に戻すのではなく、新しいものを取り入れて進めているのがよい。模擬投票など、大人になって社会の一員となった時に必要な学習をしっかりとすすめてほしい。</li> <li>②保護者アンケートでは、ICT機器の問いに「わからない」という回答が多くあった。今後は、外部への発信について考えていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会とかかわる力を育てる授業実践ができた。 職員が自主的に同僚性を発揮して研究開発していくことで、ポストコロナの教育活動の充実を図りたい。</li> <li>②ICT機器を活用した授業の事例を蓄積できた。 これまでの取組を継続し、その様子をより多くの方に知ってもらえるよう工夫していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①感染症対策が今後緩和されることを見据えて、コロナ前に戻すではなく、学校目標の達成のために、職員のアイデアをベースにした教科等の授業に活用できる情報収集と整理が必要と考える。</li> <li>②今後は、ICT機器を活用した授業の外部への発信や参観等を通じて校内外で認知度を上げ、取組の充実を図ることが必要と考える。</li> </ul>
2 児童・生徒 指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた個別の指導と集団の指導両方を関連付けた授業実践、児童・生徒支援・教育相談を組織的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 特別支援学校における自立活動教諭や栄養士等を生かした指導等の充実を図る。</li> <li>①-2 医療的ケア児のニーズを踏まえて、スクールバスによる登校を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 支援連携、指導推進グループは、各学部における専門職を生かした指導等の現状を把握し、校内で情報共有を図る。</li> <li>①-2 実施に向けて、保護者等への説明を行う。 保護者等と相談しながら検討を進める。 スクールバスによる登校を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 各学部における専門職を生かした指導等の現状を把握し、校内で情報共有したか。</li> <li>①-2 医療的ケア児のニーズを踏まえてスクールバスによる登校を開始したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 摂食指導、車椅子の調整、姿勢保持、書字、楽器の操作、学習課題の設定等の改善につなげた。</li> <li>①-2 保護者対象の説明会を実施し、個別に意向を確認する機会を設けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 障害の重度化に対応した指導技術等の向上と、アレルギーについて職員の理解を深め、安全な体制の充実を図ることが課題である。</li> <li>①-2 対象となる児童・生徒の保護者への周知が十分ではなかったことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 多様な職種がかかわるのは良い。重度化と言われるが軽度と言われるケースのこともしっかり考えていく必要がある。</li> <li>①-2 医療的ケアの通学支援について「わからない」という回答が、保護者、教員とも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 校内の多職種が協働し、指導と支援の改善が進んだ。様々な教育的ニーズに応えられるよう、職員の研修を充実させたい。</li> <li>①-2 スクールバスによる登校にはつながらなかったが、次年度は福祉車両による通学支援開始を見据え、丁寧に情報提供や相談を行うことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 摂食指導や認知発達などの理解を深めるため、研修等の充実を図る。アレルギーについて職員研修を行い、日々の教育活動における安全体制を検証する。</li> <li>①-2 医療的ケア児の通学支援について、保護者への周知を丁寧に行い、地域の関係機関の協力を得ながら、実施に向けて取り組むことが必要と考える。</li> </ul>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・一人ひとりの発達の段階に応じた進路指導・支援を行い、将来の自立と社会参加を実現するために必要な力を育成する。	①-1 児童・生徒が社会貢献できた実感できる授業を行う。  ①-2 コロナ禍における、進路指導、進路学習、進路相談を工夫し、一人ひとりがよりよい進路選択を行える状況を整える。	①-1 社会貢献につながる授業を抽出し、意味づけるとともに、児童・生徒がより実感できるよう授業改善を図る。  ①-2 感染症対策のため、見学や相談などに制限がある際に、代替手段を工夫する。	①-1 社会貢献につながる授業を行ったか。児童・生徒の自己肯定感、自己有用感を高める取組が行えたか。  ①-2 見学等に制限があった場合の代替手段を工夫し、進路選択に必要な情報提供ができたか。	①-1 他者とのかわりを意図的に設定したことで取組が充実し、児童・生徒が手ごたえを感じていることがうかがえた。  ①-2 生徒と保護者が一緒に施設見学したことで、進路選択のイメージの共有がすすんだ。	①-1 コロナ禍で制限されていた、地域で学ぶ授業の実施の意義を再認識し、その取組の充実を図ることが課題である。  ①-2 社会の動向や生徒のニーズ、様々な障害の状況を踏まえた進路学習の内容や方法の見直しが必要と考える。	①-1 地域での清掃活動は、自分の活動が社会につながっているという考え方で大切である。  ①-2 在学中に放課後等デイサービスを利用している児童・生徒の卒業後の生活について、情報提供、情報共有が必要である。	①-1 社会貢献を実感できる授業を行うことができた。今後は地域の自治会等との関係を大切にして、授業の充実を図りたい。  ①-2 進路選択を行える状況を整えたが、進路相談については、関係機関と引き続き情報共有を行いつつ、児童・生徒の実態に合わせた学習の充実を図りたい。	①-1 近隣の施設等の清掃や製品販売、作品展示などを通じて、地域で学ぶ本校の授業の意味づけを行い、その充実を図ることが必要と考える。  ①-2 感染症対策をふまえて企業や福祉施設の見学や体験ができる進路学習を充実させることにより、よりよい進路選択につなげる。
4	地域等との協働	・共生社会の実現に向け、学校と地域住民との協働による活動を展開する。	①-1 共生社会の実現に向け、広報活動や地域の活動への参画を通して本校の取組の理解を進める。  ①-2 共生社会の実現に向け、地域の小中学校及び高等学校への学校コンサルテーションを行い、地域の特別支援教育の充実を図る。	①-1 本校が作成する情報誌の内容と情報提供先を見直し、広報の充実を図る。地域の防災訓練等に参加するなど、地域防災に貢献する。  ①-2 学校コンサルテーション実施後、対象校の改善状況をアンケート等により把握し、学校コンサルテーションを充実させる。	①-1 情報誌の内容や提供先等を改善したか。地域防災の取組に参画し、地域に役立つ情報発信を行えたか。  ①-2 本校が行った学校コンサルテーションについて、対象校の取組に変化が見られたか。	①-1 地域での学びや地域の活動への参加、地域住民対象のイベントなど、学校紹介が充実した。  ①-2 依頼校のコーディネーターと丁寧な打合せを行い、学校コンサルテーションを効果的に進められた。	①-1 学校の様々な取組を地域貢献の視点でとらえなおして意味づけることで、内容や方法の充実を図る必要がある。  ①-2 当事者とその関係者がその地域で必要とする情報にアクセスしづらな状況にあることが分かった。	①-1 広報誌に関しては、タイトルを工夫して「みんなが何を知りたいか」という視点を持つことが大切である。  ①-2 学校教育法第74条にそった取組として、学校コンサルテーションは大切である。	①-1 地域とつながり、本校の取り組みの理解は進んだが、学校目線だけではなく、地域の方々の視点から学校の取組を見直していきたい。  ①-2 学校コンサルテーションにより地域特別支援教育の充実を図った。関係機関マップを作成するなど、さらに地域の小中学校等に役立つ情報提供を行ってきたい。	①-1 広報誌に地域の自治会のイベントや大学等で行っている実践等を紹介するなどして連携し、授業や情報提供の充実を図る。  ①-2 本校及び地域の小・中・高校に在籍する、支援を必要とする子どもの教育に役立つ、福祉や行政など地域の関係機関マップを作成する。
5	学校管理 学校運営	・教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。  ・生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	① 児童・生徒が安全に安心して学べるための、丁寧なかかわりや環境整備について、職員間で協議をとおして理解を深める。  ② 業務改善を行い、働き方改革を推進する。	① 「年齢に応じた対応」、「安全な学習環境」等のテーマを設定し、職員間で協議を行い、適切な対応について理解を深める。  ② 各職員は、業務遂行に当たった課題と改善策を随時提案し、改善を図る。	① 児童・生徒への丁寧で適切な対応のスタンダードを作成できたか。  ② 職員は業務改善の提案を行ったか。また、提案を受けて改善したか。	① 職員が相互理解を深めながら、丁寧で適切な対応のスタンダードを作成した。  ② アンケートや点検報告、集計などの業務の電子化により効率化が進んだ。	① 職員間の対話を大切にしたい、人権意識の情報が流れ続ける職場づくりを行うことが必要と考える。  ② 業務改善が進んだ点はあるが、さらなる改善が必要である。	① 未定稿のスタンダードは生の声を感じ取れた。人とかわる仕事は感性が大切。感性を育てていくことと対応をよくしていくことが基本となる。 ② 業務改善は特定の時期ではなく直面したものは随時やっていくとよい。	① スタンダードは、様々なニーズがある児童・生徒にいろいろな視点から意見を出し合ってきた。教員の学びにつながるとういよと考える。  ② 電子化による業務の改善を行った。日々の業務に取り組む中で、職員が気付いた改善に取組む体制を整えるとよい。	① 丁寧なかかわりのスタンダードの実践検証や、不祥事防止点検等を、年間を通して計画的に行うことにより職員の意識を高める。  ② 全ての職員が働き方改革に参画しやすいよう、校内ネットワークを整備するなど、業務改善につながる提案ができる仕組みを整える。